

2023年度 自己点検・評価シート

自己評価組織	応用生物学研究科
--------	----------

基準 1	理念・目的
------	-------

I. 課題事項等への対応状況

直近の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0102	研究科の教育研究上の目的等について、大学パンフレットやホームページでの記述に齟齬がないことを毎年確認しているが、その結果を文書に残すなどの作業をしていなかった。今後、担当者に教授会で報告する機会を設けるなどして、議事録に記載する工夫が必要である。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
大学パンフレットやホームページの内容に関しては、研究科長および専攻主任のところに確認があり、その都度研究科長や専攻主任が個々に対応していたが、2021年度からは大学院教務委員会に情報共有してより多くの視点から確認するようにした [0102a pp.22, 23] [0102b pp.1, 18, 19, 21]。また、これらの資料は Google Classroom を活用してクラウド上に共有するようにしており、いつでも過去の資料を確認できるような体制を整えた [0102c]。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0102	大学の基本理念・使命・教育目的および学部・研究科の教育研究上の目的を学則またはこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員および学生に周知し、社会に対して公表していますか。	自己評価	A
評価の視点		(1)学部（学科）・研究科（専攻）の教育研究上の目的や人間像は、適切な媒体を使って明示していますか。 ・明示媒体（例えば学生便覧やWebサイトなど）間の記述の統一 (2)刊行物、Webサイト等により大学の基本理念・使命・教育目的、学部・研究科の教育研究上の目的等を周知・公表していますか。 ・学生・教職員への周知 ・社会に対しての公表		
現状説明				
2020年度までは様々な媒体における掲載内容の確認依頼が大学院専攻主任に届いたものを、専攻主任が自身で確認し、回答していた。しかし、2021年度に専攻主任が代わったのをきっかけに大学院教務委員会で情報を共有し、より多くの委員で内容を確認する体制を整えた [0102a pp.22, 23] [0102b pp.1, 18, 19, 21] [0102c]。2022年度に大学ウェブサイトの大幅なリニューアルが施され、各ページを見直す必要があったことから、研究科の教育上の目的や人間像の表現に齟齬がないように注意した。また、英語サイトの充実に伴い、文章の追加修正をするとともに、日本語-英語の対応も意識して確認するようになった [0102b pp.19, 21]。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0102	Google Classroom を用いた大学院教務委員会での情報共有

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0102	大学ウェブサイトにおける応用生物学研究科ページの充実
今後の改善・向上方策	
これまで大学ウェブサイトにおいて研究科の教育研究上の目的などを明記しているが、活字ばかりのページとなっており、閲覧者が読みたくなるような内容とは言い難いものである。今後は学生が学ぶ様子や研究生活を楽しむ様子などの画像を積極的に取り入れ、目を通したくなるような工夫を施したい。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
レビューなし	
長所・特色	
留意点	
*各項に留意点レベルを記入	
	【A】・・・緊急の改善を要する事項
	【B】・・・検討を要する事項

根拠資料 No.		ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	番号		

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

2023 年度 自己点検・評価シート

自己評価組織	応用生物学研究科
--------	----------

基準 2	内部質保証
------	-------

I. 課題事項等への対応状況

直近の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0203	研究科内内部質保証システムにおける年間スケジュールの実践。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
研究科内における内部質保証システムを有効なものとするために、2019 年度までに決定した年間スケジュールに沿って、2020 年度から 2022 年度まで自己点検・評価を行い、このうち 2020 年度にはピアレビュー受審を実施した [0203a][0203b][0203c][0203d]。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0203	方針および手続きに基づき、内部質保証システムは有効に機能していますか。	自己評価	A
評価の視点	(5)外部評価を自己点検・評価に取り入れていますか。 ・学内のピアレビューは含まない			
現状説明				
2019 年度に設定した研究科内の内部質保証システムにおける年間スケジュールに従って、2020 年度に大学による自己点検・評価の詳細点検（2018～2019 年度）をピアレビュー受審も含めて実施した[0203a][0203b]。さらに同年、大学基準協会による認証評価も受審した[0203e]。2021 年度と 2022 年度には大学による自己点検・評価の年度点検を実施した[0203c][0203d]。内部質保証システムをシステムティックに運用できる体制がある程度整えられたため、以前よりもスムーズに自己点検・評価が実施されたと考えられる。一方、年度によって自己点検・評価の実施項目が異なるなど、それに応じた体制を整える必要があることが判明した。そのため 2022 年度には、これまでの大学による自己点検・評価の実践状況を踏まえて自己点検・評価実施体制を見直し、各評価項目について主担当者を決めて、より具体的な実施計画案を策定し[0203f][0203g]、内部質保証システムを効率的に維持できるよう体制を整えた。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0203	内部質保証システムを有効に機能させるため、年間スケジュールをより現実的なものに改善した。
項目 No. 0203	年間スケジュール実践のために、自己点検・評価の各項目の主担当者を決定した。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0203	研究科内内部質保証体制による年間スケジュールの実践と検証
今後の改善・向上方策	
評価対象年度毎に研究科内の内部質保証体制を見直し、より現実に応じた年間スケジュールを作成、実践し、効率的に運用されているかどうかを検証する。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
レビューなし	
長所・特色	
留意点	
*各項目に留意点レベルを記入	
	【A】・・・緊急の改善を要する事項
	【B】・・・検討を要する事項

根拠資料 No.		ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	番号		

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

2023年度 自己点検・評価シート

自己評価組織	応用生物学研究科
--------	----------

基準 4 教育課程・学習成果 (1)

I. 課題事項等への対応状況

直近の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input type="checkbox"/> 課題事項	<input checked="" type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0401	DP、CP は大学ホームページで適切に公開されているが、自己点検・評価シートへの記載と根拠資料が示されていないため、情報を掲載することが望まれる。【B】
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
前回この項目を点検・評価した2020年度の自己点検・評価シートでは項目 No. 0401 について記述が認められなかった [0203a pp. 6-8]。今回の自己点検・評価では省くことなく記載した。	

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0403	「応用生物学学外研修」における短期留学プログラムの充実
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
COVID-19 が収束し、海外留学が可能となった。大学院生が2名短期留学をしたが、必修科目である応用生物学研究や応用生物学特別演習が各学期に開講されているため、必修以外の単位は揃っていても数か月に及ぶ留学をすると必修科目を長期間欠席することとなり、留学の妨げとなっていた。そこで、留学先の担当教員から研究指導を受けることで上記の必修科目の単位を取得できるような、制度を定め大学院生が積極的に留学できる環境を整えた [0102b pp. 1-5, 7]。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0401 授与する学位ごとに、学位授与の方針（DP）を定めて、公表していますか。	自己評価	A
評価の視点	(1)授与する学位ごとに、当該学位にふさわしい学習成果（課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等）を明示したDPを適切に設定していますか。 (2)授与する学位ごとに、DPを社会に対して公表していますか。		
現状説明	学位授与の方針（DP）は毎年学生便覧の内容確認を依頼される際に、大学院教務委員会で原稿を共有し、その内容を確認している [0102a p. 22]。 DPの公表は学生に対しては学生便覧 [0401a pp. 21, 22]、社会に対しては大学ウェブサイトの情報公表内で公表している [0401b]。		

自己点検・評価項目	0402	授与する学位ごとに、教育課程編成・実施の方針（CP）を定めて、公表していますか。	自己評価	A
評価の視点	(1)授与する学位ごとに、教育課程の体系、教育内容を備えたCPを設定していますか。 (2)授与する学位ごとに、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等を備えたCPを設定していますか。 (3)授与する学位ごとに、CPを社会に対して公表していますか。 (4)CPとDPの関連性は適切ですか。 ・CPとDPの整合性			
現状説明				
教育課程編成・実施の方針（CP）も学位授与の方針（DP）と同様に毎年学生便覧の内容確認を依頼される際、大学院教務委員会で原稿を共有し、その内容を確認している [0102a p.22]。 CPの公表は学生に対しては学生便覧 [0401a pp.21,22]、社会に対しては大学ウェブサイトの情報公表内で公表している [0401b]。 応用生物学研究科のCPはDPに基づいて作成されており、関連性は適切である。				

自己点検・評価項目	0403	教育課程編成・実施の方針（CP）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していますか。	自己評価	B
評価の視点	(1)CPと教育課程の整合性はとれていますか。 (2)教育課程の編成にあたっての順次性および体系性への配慮をしていますか。（ナンバリング、カリキュラムマップ） (3)単位制度の趣旨に沿った単位の設定をしていますか。 ・授業科目の性質、授業時間外に必要な学習を考慮した単位数の設定 (4)個々の授業科目の内容および方法は適していますか。 (5)授業科目の位置づけ（必修、選択等）は適切ですか。 (6)各学位課程にふさわしい教育内容を設定していますか。 【学士課程】 ・初年次教育、高大接続への配慮、教養教育と専門教育の適切な配置等 【修士課程、博士課程】 ・コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等 (8)学生の社会的および職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育を適切に実施していますか。			
現状説明				
応用生物学研究科の教育課程編成・実施の方針（CP）と教育課程の整合性については問題ないと判断しているが、学士課程で示されているようなカリキュラムマップは作成していない [0403a] [0403b] [0403c] [0403d]。特に、2021年度から本学大学院に持続社会創成教育プログラムが導入され、研究科の枠を超えて講義を受けることができるようになったことから [0403e]、これらも含めた順次性および体系性をわかりやすく示したカリキュラムマップを作成する必要がある。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0401	毎年学生便覧の内容確認を依頼される際に、大学院教務委員会で原稿を共有し、DPやCPなどの内容を確認している [0102a p.22]。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0403	応用生物学研究科の教育課程編成・実施の方針（CP）と教育課程の整合性については問題ないと判断しているが、学士課程で示されているようなカリキュラムマップは作成していない [0403a] [0403b] [0403c] [0403d]。
今後の改善・向上方策	
持続社会創成教育プログラムも含めた応用生物学研究科の教育課程のカリキュラムマップを作成したい。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
0401	DP の公表は学生に対しては学生便覧 [0401a pp. 21, 22]、社会に対しては大学ウェブサイトの情報公表を通じて適切に公表されている [0401b]。
0402	CP も DP と同様に毎年学生便覧の内容確認を依頼される際、大学院教務委員会で原稿を共有し、その内容が確認されている [0102a p. 22]。
0403	本研究科ではカリキュラムマップは作成されておらず、特に 2021 年度に大学院で導入された持続社会創成教育プログラムを踏まえて、順次性および体系性をわかりやすく示したカリキュラムマップを作成する必要がある。
長所・特色	
0402	CP も DP と同様に毎年学生便覧の内容確認を依頼される際、大学院教務委員会で原稿を共有し、その内容が確認されている [0102a p. 22]。
留意点	
*各項目に留意点レベルを記入	
	【A】・・・緊急の改善を要する事項
	【B】・・・検討を要する事項
0403	2021 年度に大学院で導入された持続社会創成教育プログラムを踏まえて、順次性および体系性をわかりやすく示したカリキュラムマップを作成する必要がある。【B】

根拠資料 No.		ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	番号		
		追加資料なし	

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

2023年度 自己点検・評価シート

自己評価組織	応用生物学研究科
--------	----------

基準 4 教育課程・学習成果 (2)

I. 課題事項等への対応状況

直近の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0404	2021年度から導入される大学院新教育プログラムへの対策
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
<p>大学院新教育プログラム（持続社会創成教育プログラム）については、2020年度に教授会等で学部内に周知された。また、応用生物学研究科主管科目の講義について、実施体制を整備した。さらに、人間力発展教育部所属の講義担当予定者の大学院講義担当資格審査が実施されていなかったため、資格審査を行った [0404a]。</p> <p>2021年度には5名の大学院生が持続社会創成教育プログラムを希望したことから、応用生物学研究科における持続社会創成教育プログラム M1 および M2 成果物審査要領を整備され、2022年度には5名のプログラム修了生を輩出することができた [0404b] [0404c] [0404d]。</p>	

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0404	大学院教務委員会規程の整備
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
<p>2020年度の自己点検・評価（詳細点検）の実施により、上記留意点を認識したことから、応用生物学研究科の大学院教務委員会の規程を確認し直したところ、既に整備されていたことが判明した [0404e]。</p>	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んでいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0404	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じていますか。	自己評価	A
評価の視点	<p>(1) 【学部のみ】各学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るため、1年間または学期ごとの履修登録単位数の上限設定等の措置を講じていますか。</p> <p>(2) シラバスに次の内容を組み込んでいますか。また、授業はシラバスどおりに行われていますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の目的、達成目標、学習成果の指標、授業内容および方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法および基準等の明示 ・ 授業内容とシラバスとの整合性の確保 <p>(3) 授業計画や成績評価の方法を変更した際、学生への周知を適切に行っていますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内容・方法の変更等に伴う対応 			

	<p>(4)学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容および授業方法を講じていますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教員・学生間や学生同士のコミュニケーション機会の確保 ・ グループ活動の活用 <p>(5)学生の理解度、学習の進捗を適切に確認、把握していますか。</p> <p>(6)課題の量・質、フィードバックの方法は適切ですか。</p> <p>(7)授業の編成および管理運営は適切に行っていますか。</p> <p>【学士課程】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業形態に配慮した1授業あたりの受講者数になるように授業の編成を行っていますか。 ・ 履修指導は適切に実施していますか。 <p>【修士課程、博士課程】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究指導計画（研究指導の内容および方法、年間スケジュール）を明示していますか。また計画に基づく研究指導を行うように取り組んでいますか。
現状説明	
<p>大学院教務委員会において年間スケジュールを設定し、応用生物学研究科委員会において全教員に周知、学生には年度初めに大学院ウェブサイトにて公表している [0102b p.23] [0404f]。また、授業編成や大学院研究中間報告会、あるいは博士および修士学位請求論文発表会の企画・運営に関しても、同委員会において毎回点検評価を行い、改善計画を立てて、より教育効果が高まるようにPDCAサイクルを回している [0102b pp.23-24]。</p>	

自己点検・評価項目	0405	成績評価、単位認定および学位授与は適切に行っていますか。	自己評価	B
評価の視点	<p>(1)シラバスに掲げている「達成目標」に基づき、成績評価がなされていますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ シラバス記載の「達成目標」「成績評価方法」に基づく成績評価 <p>(3)成績評価の客観性、厳格性を組織的に確認していますか。</p> <p>(6)学位論文審査がある場合、学位論文審査基準が明確に示され、かつ公表されていますか。</p> <p>(7)学位審査および修了認定の客観性および厳格性を確保するために、評価の基準、評価のレベルを示したルーブリックを用いた評価がなされていますか。</p> <p>(8)学位授与に係る責任体制および手続きは明確に示されていますか。</p> <p>(9)適切な学位授与を行っていますか。</p>			
現状説明				
<p>応用生物学研究科における学位の審査基準および審査手順については、学生便覧に明記しており、その内容は大学院教務委員会の委員全員によって毎年確認されている [0401a p.69] [0102a p.22]。詳細な日程は、研究科委員会にて教員に通知され [0404c pp.120-122]、学生に対しては研究科ウェブサイトにて公表されている [0404g]。主および副指導教授によって作成された審査結果は研究科委員会によって公開され、審議のうえ承認されている [0404d p.5]。</p> <p>なお、個々の科目における客観性や厳格性に対する組織的な確認業務はまだ実施体制を構築するに至っていない。</p>				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0404	<p>大学院教務委員会において年間スケジュールを設定し、応用生物学研究科委員会において全教員に周知、学生には年度初めに大学院ウェブサイトにて公表している [0102b p.23] [0404f]。</p>

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0405	個々の科目における客観性や厳格性に対する組織的な確認業務はまだ実施体制を構築するに至っていない。
今後の改善・向上方策	
学位審査および修了認定に関しては、手続きや審査報告書の公開などを行い、その客観性および厳格性を確保しているが、個々の科目においては対応することができていない。既に、大学院教務委員会の業務はあまりに多く、時間と労力における余裕がない状況にある。大学院生の増加に伴う業務の増加を緩和するため、担当業務を分割し、一部の教員に業務が集中しないような対策が必要である。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
0404 授業編成や大学院研究中間報告会、あるいは博士および修士学位請求論文発表会の企画・運営に関しても、同委員会において毎回点検評価を行い、改善計画を立てて、より教育効果が高まるように PDCA サイクルを回している [0102b pp.23-24]。このように PDCA サイクルをしっかりと実施している。	
長所・特色	
0404 研究科では、毎回点検評価を行い、改善計画を立てて、より教育効果が高まるように PDCA サイクルを回している点が特徴である。	
留意点	
*各項に留意点レベルを記入 【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項	
0405 大学院生の増加に伴う業務の増加を緩和するため、担当業務を分割し、一部の教員に業務が集中しないような体制を検討することが望まれる。【B】 0405 個々の科目における客観性や厳格性に対する組織的な確認業務はまだ実施体制を構築するに至っていないなど、多くの大学で課題となっている内容が指摘されており、実施体制構築の検討が望まれる。【B】	

根拠資料 No.		ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	番号		
		追加資料なし	

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

2023年度 自己点検・評価シート

自己評価組織 応用生物学研究科

基準 4 教育課程・学習成果 (3)

I. 課題事項等への対応状況

直近の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0407	応用生物学研究科では当該研究科の授業を重視するため2020年度の準備段階では30単位の中に含むことができないように手続きをしていたが、2021年度の新入生から他の研究科と同じく修了要件の30単位の中に4単位までは認めるようにしてほしいとの希望が多く寄せられた。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
本件について教務支援課に改善を働きかけたが、博士前期課程通常プログラムの修了要件変更を伴うため、2021年度博士前期課程入学者に対しては認められなかった。しかし、2022年度入学者からは修了要件を変更し、他研究科と同じく応用生物学研究科の通常プログラムの学生も修了要件の30単位の中に4単位まで認められることとなった[0401a pp.71]。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んでいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0406	学位授与の方針 (DP) に明示した学生の学習成果を IR データも踏まえて適切に把握し、評価していますか。	自己評価	A
評価の視点	(1) 学生の学習成果を測るための指標を定め、成果を確認していますか。 (2) 【学部のみ】 成績分布、進級などの実績を学部・学科として把握していますか。 ・学習成果に関する情報の把握と共有 (3) 学習成果を把握・評価するために、以下の方法を用いて改善・向上に取り組んでいますか。 ≪学習成果の測定方法例≫ ・アセスメント・テスト (GPS-Academic) ・ルーブリックを活用した測定 ・学習成果の測定を目的とした学生調査 (学びに関する調査 等) ・卒業生、就職先への意見聴取			
現状説明	学位授与の方針 (DP) に明示した学生の学習成果の評価は、主および副指導教授らで審査報告書を作成することで行っている。また、これらの審査報告書は研究科委員会で公表され、承認を得ている[0406a p.20]。 大学院生に対して GPS-Academic が実施されていないことから、IR データを踏まえた学習成果の測定は実施できていない。 一方、1年間に2回実施される大学院研究中間報告会では、毎回就職した修了生に講演をしてもらっている。それぞれの就職先でしっかりと活躍している様子を聞き、大学院教育は適切に行われていたことを確認した[0406b]。			

自己点検・評価項目	0407	教育課程およびその内容、方法の適切性について、学位授与の方針（DP）、教育課程編成・実施の方針（CP）に基づき、IR データも活用して定期的に自己点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	自己評価	A
評価の視点	(1)適切な根拠資料に基づく定期的な自己点検・評価を行っていますか。 ・学習成果の測定結果の適切な活用 (2)自己点検・評価の結果に基づき、各組織が改善・向上に取り組んでいますか。			
現状説明				
大学院の修了要件となっている大学院研究中間報告会や修士および博士学位請求論文発表会の運営について、2021年度からは COVID-19 の影響により Zoom を用いた遠隔開催という形で実施していた[0407a]。慣れない遠隔方式での開催について、運営母体である大学院教務委員会では毎回実施方法について反省を行い、次の機会では改善を試みるという形でPDCAサイクルを回して改善・向上に取り組んだ[0102a pp. 14, 25] [0102b pp. 10, 21]。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0406	1 年間に 2 回実施される大学院研究中間報告会では、毎回就職した修了生に講演をしてもらっている。
項目 No. 0407	大学院教務委員会では大学院研究中間報告会や修士および博士学位請求論文発表会の実施方法について毎回反省を行い、次の機会では改善を試みるという形でPDCAサイクルを回して改善・向上に取り組んだ[0102a pp. 14, 25] [0102b pp. 10, 21]。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0406	大学院生に対して GPS-Academic が実施されていないことから、IR データを踏まえた学習成果の測定が実施できていない。
今後の改善・向上方策	
応用生物学研究科の大学院生の IR データとしてどんなものを用いれば良いか、大学院教務委員会で議論し、対策を考える。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
0406	学位授与の方針（DP）に明示した学生の学習成果の評価は、主および副指導教授らで審査報告書を作成することで行っており、これらの審査報告書は研究科委員会で公表され、承認を得ている[0406a]。また1年間に2回実施される大学院研究中間報告会では、毎回就職した修了生に講演をしてもらっており、学習成果を把握・評価するための改善・向上に取り組んでいるといえる[0406b]。
0407	大学院の修了要件となっている大学院研究中間報告会や修士および博士学位請求論文発表会の運営について、

2021年度からはCOVID-19の影響によりZoomを用いた遠隔開催という形で実施しているが[0407a]、大学院教務委員会で毎回実施方法について反省を行い、次の機会では改善を試みるという形でPDCAサイクルを回しており、改善・向上に取り組んでいるといえる[0102a pp. 14, 25] [0102b pp. 10, 21]。
長所・特色
0406・0407 1年間に2回実施される大学院研究中間報告会で毎回就職した修了生の講演を行うなど、特色ある取り組みがなされている。また大学院研究中間報告会や修士および博士学位請求論文発表会の運営をZoomで実施し、次の機会では改善を試みるという形でPDCAサイクルを回して改善・向上に取り組んでいる点は評価できる[0102a] [0102b]。
留意点
*各項に留意点レベルを記入 【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項
0406 研究科ごとに重視されるIRデータは異なる可能性があるため、応用生物学研究科の大学院生に必要なデータの特定や分析を進めて応用生物学研究科の運営に役立てていただきたい。【B】

根拠資料 No.		ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	番号		
		追加資料なし	

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

2023年度 自己点検・評価シート

自己評価組織	応用生物学研究科
--------	----------

基準 5 学生の受け入れ

I. 課題事項等への対応状況

直近の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0503	博士前期課程は定員を超えているが、博士後期課程は課題がある。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
2020年度の大学基準協会による認証評価において、大学院の定員管理の徹底が提言されたことから、2022年度に大学院定員充足率改善検討委員会 WG が立ち上げられた [0203e p.16] [0503a pp.67,68]。その中で応用生物学研究科の中でも対策を検討し、博士前期課程においては、最近の2年間で充足率1.4-1.5と定員以上の院生を受け入れているため、現在の定員数24人/年を実状に近づけるため定員数を30人に引き上げ、その数の院生に十分な研究環境を確保するためのスペースの確保に努めていくという対応策を提案した。一方、博士後期課程については、最近の2年間で充足率が0.3前後と低いため、実状に合わせて定員数を6人/年から4人/年に引き下げ、また企業などからの社会人ドクターを積極的に受け入れていくという方針を提案した [0503a pp.67,68]。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0501	入学者受入れの方針(AP)を定めて、公表していますか。	自己評価	A
評価の視点	(1)学位授与の方針(DP)および教育課程編成・実施の方針(CP)を踏まえた方針となっていますか。 (3)【新学科・新専攻設置時のみ】社会に対し公表していますか。 (4)下記を踏まえたAPを設定していますか。 ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像 ・入学希望者に求める水準等の判定方法			
現状説明				
応用生物学研究科の入学者受入れの方針(AP)については大学ウェブサイトにて公表されている [0401b]。またその内容は入試要項の確認依頼が専攻主任に届いた際に、大学院教務委員会で共有され、委員全員で確認作業を行っている [0102b p.19]。				

自己点検・評価項目	0502	入学者受入れの方針(AP)に基づき、学生募集および入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施していますか。	自己評価	A
評価の視点	(1)APと入試形態は整合していますか。 ・求める学生像と入試形態との整合性 (2)APに基づき、大学教育を受けるための能力・適性等を判定できる入学者選抜の方法を採用していますか。 ・教育課程編成・実施の方針(CP)との関連性			

現状説明	
<p>応用生物学研究科は入学者受入の方針（AP）として「応用生物化学、環境生物科学および食品栄養科学のうち一分野についての基礎的知識を有し、生物、環境または食品をめぐる課題に取り組む意思がある。」などとしている [0401b]。そのため、入学者選抜においては基礎的知識を筆記試験で、生物、環境または食品をめぐる課題に取り組む意思については面接試験を課しており、求める学生像と入試形態との整合性を確保している [0502a pp.21-25]。</p>	

自己点検・評価項目	0503	適切な定員を設定し、入学者の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理していますか。	自己評価	A
評価の視点	<p>入学定員および収容定員の適切な設定と在籍学生数を管理していますか。</p> <p>【学士課程】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学定員に対する入学者数比率 ・編入学定員に対する編入学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数の過剰または未充足に関する対応 <p>【修士課程、博士課程】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収容定員に対する在籍学生数比率 			
現状説明				
<p>博士前期課程においては、最近の2年間で充足率1.4-1.5と定員以上の院生を受け入れているため、現在の定員数24人/年を実状に近づけるため定員数を30人に引き上げ、その数の院生に十分な研究環境を保障するためのスペースの確保に努めていくという対応策を提案した。一方、博士後期課程については、最近の2年間で充足率が0.3前後と低いため、実状に合わせて定員数を6人/年から4人/年に引き下げ、また企業などからの社会人ドクターを積極的に受け入れていくという方針を提案した [0503a pp.67,68]。</p>				

自己点検・評価項目	0504	学生募集および入学者選抜は、入学者受入の方針（AP）に基づき、IRデータも活用し、公正かつ適切に実施されているか定期的に検証を行っていますか。	自己評価	A
評価の視点	<p>(1)学生募集や入学者選抜方法の適切性について検証していますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員会等における根拠資料に基づいた定期的な検証 <p>(2)自己点検・評価の結果に基づき、各組織が改善・向上に取り組んでいますか。</p>			
現状説明				
<p>学生募集に関しては毎年4月下旬に大学院進学説明会を開催している [0504a]。その説明資料は大学院教務委員会で確認している [0102b p.1]。さらに、説明資料は大学院ウェブサイトにて在籍学生はいつでも閲覧できるようになっている [0504b]。また、大学院進学をした学生が将来どのような仕事をしているのかイメージしやすいように、1年間に2回開催されている大学院研究中間報告会において、修了生講演をしてもらい、学生達の進学意欲の向上を図っている [0406b]。</p>				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0504	大学院進学をした学生が将来どのような仕事をしているのかイメージしやすいように、1年間に2回開催されている大学院研究中間報告会において、修了生講演をしてもらい、学生達の進学意欲の向上を図っている [0406b]。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0503	博士前期課程においては、最近の2年間で充足率1.4-1.5と定員以上の院生を受け入れている。一方、博士後期課程については、最近の2年間で充足率が0.3前後と低い。

2023年度 自己点検・評価シート

自己評価組織	応用生物学研究科
--------	----------

基準 6	教員・教員組織
------	---------

I. 課題事項等への対応状況

直近の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0605	教員の年齢構成に偏りがある点
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
<p>応用生物学研究科は応用生物学部の教員組織を基盤としていることから、教員組織の確認と適切性を検討する場を学部と共に設けた。学部・研究科主任会および教授会・研究科委員会で教員組織について状況確認と議論を行った [0602a, b, c, d, e]</p>	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0602	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制していますか。	自己評価	B
評価の視点	<p>(1)大学全体および学部・研究科等ごとの専任教員数は、適切ですか。</p> <p>(2)教育理念・目的を実現できる教員組織を編制していますか。(方針等に基づく組織編制の明確化)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員組織の編制に関する方針と教員組織の整合性 ・各学位課程の目的に即した教員配置 ・国際性、男女比 ・特定の範囲の年齢に偏ることのないバランスのとれた年齢構成に配慮した教員配置 ・各組織における将来計画の設定 ・教育上主要と認められる授業科目における専任教員（教授、准教授、講師または助教）の適正な配置 ・研究科担当教員の資格の明確化と適正な配置 ・教員の授業担当負担への適切な配慮 			
現状説明	<p>教員組織の編成、教員配置については、学園ビジョン 2021-2025 に記載の生物生命系改革にむけて、2004 年以降、公式に議論されてこなかった昇格昇任に関わる学部・研究科内規について、透明性を高めるための議論を開始した [0602a, b, c, d, e]ほか、副学長主導の応用生物学部改革検討委員会を設置した[0602f]。</p> <p>国際性の担保について、英語で開講する大学院科目の可能性について議論を行った[0602g]。</p>			

自己点検・評価項目	0603	教員の募集・採用・昇格等を適切に行っていますか。	自己評価	B
評価の視点	(1)教員人事関連規程が整備され、適切な手続きによる運用をしていますか。 ・教員の募集・採用・昇格等に関する規程の整備および手続きの設定 (2)規程等に従った適切な教員人事（募集、採用、昇任等）を実施していますか。			
現状説明				
昇格については2004年に定めた学部内規[0603a]があるが、募集・採用に関する規定はない。募集・採用・昇格等の教員人事は、学部の発議を人事担当副学長に説明して大学の人事ワーキングに諮って承認を得た後に募集し、候補者を人事担当副学長に説明して大学の人事ワーキングに諮って承認を得た上で、学長らを含む面接を経て採用する手続きとなっている。2004年に定めた学部内規（資料）については、職階名称の変更が行われておらず、また手続きについて必ずしも透明性が担保されていないため、改善のための議論を開始したところである[0602a, b, c, d, e]。				

自己点検・評価項目	0604	ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上および教員組織の改善・向上につなげていますか。	自己評価	A
評価の視点	(1)FD活動を組織的に実施していますか。 (2)教員の教育活動、研究活動、社会活動等を評価し、その結果を活用していますか。			
現状説明				
(1)全学FD委員会の下に、学部FD委員会を設置して組織的にFD活動を実施している[1120a]。 (2)FD活動評価点検は学部FD活動ワーキンググループが実施して学部FD委員会承認し、報告書を全学FD委員会に提出している。前年度の評価点検に基づいた年度重点目標を設定して全学FD委員会に提出している。[0604a]。 _				

自己点検・評価項目	0605	教員組織の適切性について定期的に自己点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	自己評価	C
評価の視点	適切な根拠資料に基づく定期的な自己点検・評価を実施し、その結果に基づき、各組織が改善・向上に取り組んでいますか。			
現状説明				
教員組織の適切性については定年を含む退職等にもなう教員人事の機会に検討しているが、根拠資料に基づく定期的な自己点検・評価は実施していない。学園ビジョン2021-2025に記載の生物生命系改革にむけて、議論を開始した状況である。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0604	研究科に於けるFD活動については、教授会・研究科委員会に併せて開催するなどして、良好な出席率を得ている。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0602	教員組織の編制に関する方針と教員組織の整合性
今後の改善・向上方策	

教員組織の編成、教員配置については、学園ビジョン 2021-2025 に記載の生物生命系改革にむけて、2004 年以降、公式に議論されてこなかった昇格昇任に関わる学部・研究科内規について、透明性を高めるための議論を開始した [0602a, b, c, d, e]ほか、副学長主導の応用生物学部改革検討委員会を設置し、議論を開始したところである。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0603	昇格昇任に関わる学部・研究科内規について 2004 年以降、公式に議論されてこなかった
今後の改善・向上方策	
昇格については 2004 年に定めた学部内規[0603a]があるが、募集・採用に関する規定はない。募集・採用・昇格等の教員人事は、学部の発議を人事担当副学長に説明して大学の人事ワーキングに諮って承認を得た後に募集し、候補者を人事担当副学長に説明して大学の人事ワーキングに諮って承認を得た上で、学長らを含む面接を経て採用する手続きとなっている。2004 年に定めた学部内規（資料）については、職階名称の変更が行われておらず、また手続きについて必ずしも透明性が担保されていないため、改善のための議論を開始したところである [0602a, b, c, d, e]。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0605	根拠資料に基づく定期的な自己点検・評価は実施していない。
今後の改善・向上方策	
教員組織の適切性については定年を含む退職等にもなう教員人事の機会に検討しているが、根拠資料に基づく定期的な自己点検・評価は実施していない。学園ビジョン 2021-2025 に記載の生物生命系改革にむけて、議論を開始した状況である。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
レビューなし	
長所・特色	
留意点	
*各項に留意点レベルを記入	
	【A】・・・緊急の改善を要する事項
	【B】・・・検討を要する事項

根拠資料 No.		ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	番号		

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
 ●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
 △：現部署で保管

2023年度 自己点検・評価シート

自己評価組織 応用生物学研究科

基準 7 学生支援

I. 課題事項等への対応状況

直近の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0702	退学者ゼロを目指したきめ細かい学生支援体制の構築
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
2021年度より大学院教務委員会を毎月開催することとし、そこで休学や退学が懸念されるような学生について情報交換をするようにしている [0102a] [0102b]。	

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0702	進学意欲が高まるような魅力的な就職先の開拓と実績の蓄積
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
大学院生の就職は非常に好調でここ数年はほぼ100%の就職内定率を確保している [0702a]。また、キャリア支援課のチャレンジ就活に応用生物学研究科の希望者も受け入れてもらい、より魅力的な就職ができるよう指導をして頂いている [0702b]。	

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0702	短期留学プログラムの更なる充実
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
COVID-19 が収束し、海外留学が可能となった。大学院生が2名短期留学をしたが、必修科目である応用生物学研究や応用生物学特別演習が各学期に開講されているため、必修以外の単位は揃っていても数か月に及ぶ留学をすると必修科目を長期間欠席することとなり、留学の妨げとなっていた。そこで、留学先の担当教員から研究指導を受けることで上記の必修科目の単位を取得できるような、制度を定め大学院生が積極的に留学できる環境を整えた [0102b pp. 1-5, 7]。	

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0702	大学院生のためのスペースの確保
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
応用生物学研究科では学部・研究科の教育力・研究力の向上のためには、大学院の充実が不可欠との見解に立ち、学部等重点計画により、様々な取り組みをしてきた [0702c] [0702d] [0702e]。その成果として、応用生物学部で利用できるスペースを増やして頂くことができた [0702f]。また、利用頻度の低い場所を用途変更して、新任教員の居室とし、大学院生用のスペースを指導教授の居室近くに増やすことができた [0702g]。ただ、その効果により、大学院生数も増加傾向にあり、大学院生のためのスペースが依然不足している状況にある [0102b p. 24] [0702h]。	

<input type="checkbox"/> 課題事項	<input checked="" type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0702	博士後期課程に進学することが多い留学生を増やすため、海外連携の取り組みを継続することが望まれる。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	

オハイオ大学生対象の2023年度中部大学サマープログラム(6・7月の2カ月間短期日本語研修)に参加する学生と、日本人学生と一緒に参加できる、英語で学ぶ講義「仮称:Chubu Experiences またはIntroduction to Chubu University」を国際センターで計画している。全学に対する国際化第一歩としたいと考えていて、近々学部に対して講義を1コマだけ提供できないか要請が来るはずである。国際化の推進は、既存の海外協定校を対象にすると効率よく進むのではないかと考えていて、専門分野の交流を拡充していきたい [0102b p.22]。

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S:高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A:概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B:取り組んでいるが、改善すべき点が多い」「C:今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0702	学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制を整備していますか。また、学生支援は適切に行っていますか。	自己評価	A
評価の視点		(2)学生の修学に関する適切な支援を実施していますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・学生の能力に応じた補習教育、補充教育 ・正課外教育 ・留学生等の多様な学生に対する修学支援 ・障がいのある学生に対する合理的配慮 ・成績不振の学生の状況把握と指導 ・留年者および休学者の状況把握と対応 ・退学希望者の状況把握と対応 (4)学生の生活に関する適切な支援を実施していますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・学生の相談に応じる体制の整備 ・ハラスメント(アカデミック、セクシュアル、モラル等)防止のための体制の整備および啓発活動 ・心身の健康維持・増進および安全への取り組み (5)学生の進路に関する適切な支援を実施していますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の実施 ・学生のキャリア支援を行うための体制(学部との協力・連携を含む)の整備 ・進路選択に関わる支援やガイダンスの実施 ・キャリア支援講座などの実施 (6)【研究科のみ】学生の進路に関する適切な支援を実施していますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・博士課程における、学識を教授するために必要な能力を培うための機会の設定または当該機会に関する情報提供 (7)インターンシップを実施していますか。 <p>【学士課程】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・充実したインターンシップの実施 <p>【修士課程、博士課程】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施可能な体制の整備 		
現状説明		COVID-19の影響で2年間来日できない中国からの留学生が複数名いたが、国際センターの協力を得て、Zoomで直接連絡を取りながら、遠隔で指導できる範囲の大学院教育を行った。COVID-19が収束し、来日できた学生は1名であったが、現在は所属研究室で熱心に研究活動を行っている [0102a pp.1, 3-4, 7, 9, 12, 14, 17-19]。また、COVID-19の影響で自宅待機をしていた際に精神的に不安定になった学生が複数名いたが、主および副指導教授や大学院教務委員会でできる限り情報共有を行い、大学院研究中間報告会を特別に遠隔で行うなどの対応により、退学することなく修了		

を目指すことができている [0404d]。一方、大学院生が多く、学内業務も多い教員において、学生の研究指導が手薄になってしまう事例が発生してしまった。当該学生は相談窓口を利用し、改善を求めたため、円滑に指導教授を変更することができたが、学内業務の分散化や研究室あたりの進学者数に定員を設けるなどの対応を検討すべき状況にあると言える。

自己点検・評価項目	0703	学生支援の適切性について定期的に自己点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	自己評価	A
評価の視点	(2)自己点検・評価の結果に基づき、各組織が改善・向上に取り組んでいますか。			
現状説明				
学生支援の適切性に関しては、前回の自己点検・評価（詳細点検）の際に課題としてあげた点を改善するよう、大学院教務委員会が中心となって改善・向上に取り組んでいる。その一環として、2021年度より大学院教務委員会を毎月開催することとし、そこで休学や退学が懸念されるような学生について情報交換をするようにした [0102a] [0102b]。また、新入生オリエンテーションや在学生オリエンテーションでは、修了要件の確認や履修指導に加えて、奨学金や就職活動などの情報も提供し、その内容について毎回大学院教務委員会で点検と改善を行っている [0703a]。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0703	大学院教務委員会で休学や退学が懸念されるような学生について情報交換をするようにしている [0102a] [0102b]。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0702	大学院生が多く、学内業務も多い教員において、学生の研究指導が手薄になってしまう事例が発生してしまった。
今後の改善・向上方策	
学内業務の分散化や研究室あたりの進学者数に定員を設けるなどの対応を検討すべきと考えている。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
0702 COVID-19の影響で2年間来日できない留学生に対し、Zoomで直接連絡を取りながら、遠隔で大学院教育を行った。COVID-19が収束後、1名の留学生が来日し熱心に研究活動を行っている [0102a pp. 1, 3-4, 7, 9, 12, 14, 17-19]。また、COVID-19の影響で自宅待機の際に、精神的に不安定になった学生が複数名いたが、主および副指導教授や大学院教務委員会のできる限り情報共有を行い、大学院研究中間報告会を特別に遠隔で行うなどの対応により、退学することなく修了を目指すことができた [0404d]。根拠資料として、修了判定資料が示されているが、退学せずに修了できた結果のみで、研究科としての適切な支援のための体制整備について述べられていないため質問を行ったところ、大学の学生相談室の案内を配布して相談窓口を周知していると回答があった。	
0702 一方、大学院生数が多く、学生の研究指導が手薄になる事例では、相談窓口の活用により、指導教授を変更する事例があった。学内業務の分散化や研究室あたりの進学者数に定員を設けるなどの対応を検討すべき状況にある。	

2023年度 自己点検・評価シート

自己評価組織	応用生物学研究科
--------	----------

基準 8	教育研究等環境
------	---------

I. 課題事項等への対応状況

直近の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input type="checkbox"/> 課題事項	<input checked="" type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0802	指導効率を改善するために、さらなる大学院生室の配置の改善が望まれる。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況	*成果の有無を問わない
学部管轄の管轄エリアの整備、用途変更、転用、名称変更、管理者の変更[0802a, b, c, d]。	

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0806	博士前期課程進学者の増加に伴う、スペース不足が懸念されている。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況	*成果の有無を問わない
施設閉鎖されるアイソトープセンターの跡地を大学院進学者のためのスペース確保にする案を議論[0802e]。教員退職に併せての院生スペースの確保を実施[0805a]。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んでいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0802	教育研究等環境に関する方針に基づき、必要な校地および校舎を有し、かつ運動場等の教育研究活動に必要な施設および設備を整備していますか。	自己評価	A
評価の視点	(1)教育課程の特徴、学生数、教育方法に応じた施設・設備の充実を図っていますか。			
現状説明	学部・研究科の教育研究活動に必要な整備については、教育課程の特徴、学生数、教育法に応じて施設・設備の充実を図るために、共通機器委員会、学生実験委員会、先端教育環境整備充実事業運営委員会、学部スペース検討WG委員会等と協議し、具体的な整備計画を立案・実施している[0802a]。学部管轄の管轄エリアの整備、用途変更、転用、名称変更、管理者の変更[0802b, c, d]。アイソトープセンター跡地を教育研究活動のためのスペース確保とする案を議論[0802e]。食品プラントのより有効な利用のため食品プラント再生計画WGを立ち上げ現場視察をおこなった[0802f, g]。			

自己点検・評価項目	0805	研究倫理を遵守するために必要な措置を講じ、適切に対応していますか。	自己評価	A
評価の視点	研究倫理、研究活動の不正防止に関する取り組みをしていますか。			

	<ul style="list-style-type: none"> ・研究倫理、研究活動に関する規程の整備 ・教員および学生における研究倫理確立のための機会等の提供（コンプライアンス教育および研究倫理教育の定期的な実施等） ・研究倫理に関する審査委員会等の設置
現状説明	
研究倫理を遵守するために、研究活動の不正防止を徹底すべく啓発ポスターによる大学院生への周知を進めた[0805a]。教員全員に対して資料による研究倫理教育およびコンプライアンス教育を行なった[0805b]。教員全員に対する eAPRIN 受講の徹底を促した[0805c]。	

自己点検・評価項目	0806	教育研究等環境の適切性について定期的に自己点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	自己評価	A
評価の視点	適切な根拠資料に基づく定期的な自己点検・評価を実施し、その結果に基づき、各組織が改善・向上に取り組んでいますか。			
現状説明				
教育研究環境の適切性については、共通機器委員会、学生実験委員会、先端教育環境整備充実事業運営委員会、学部スペース検討 WG 委員会等の実施により定期的な自己点検・評価を実施し、改善・向上に取り組んでいる[0802a, b, c, d]。共通機器室を新設し[0802b]、次世代 DNA シーケンサーを共通機器として認定した[0806a]。食品プラントのより有効な利用のため食品プラント再生計画 WG を立ち上げ現場視察をおこなった[0802f, g]。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0802	アイソトープセンター跡地の研究教育活動への有効利用の検討を開始

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0802	学部内における利用頻度の低いスペースのさらなる調査と効率的な再配分への取り組み
今後の改善・向上方策	
教員全員に対するスペース利用状況の聞き取り調査と視察。共通機器委員会、学部スペース検討 WG 委員会等での議論。試料調整室や退職教員の実験室などの、用途変更、転用、名称変更、管理者の変更を推し進める。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0802	大学に対するスペース拡大の要望
今後の改善・向上方策	
正確な現状把握と具体的な提案の計画し要望する。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0805	研究倫理教育の強化
今後の改善・向上方策	
教員、大学院生に対して研究不正防止のための研究倫理教育に関するセミナーの開催や各種説明会での啓発アナウンス、大学院講義内容への導入を実施する。研究倫理委員会での議論を教員に広く周知し議論する。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
レビューなし	
長所・特色	
留意点	
*各項目に留意点レベルを記入	【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項

根拠資料No.		ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出区分
項目No.	番号		

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

2023年度 自己点検・評価シート

自己評価組織 応用生物学研究科

基準 9 社会連携・社会貢献

I. 課題事項等への対応状況

直近の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input type="checkbox"/> 課題事項	<input checked="" type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0902	研究科教務委員会での各取り組みの客観的評価を行うことが望まれる。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
月1回の頻度で、研究科教務委員会を開催し、各取り組みについて評価を行なっている。教務委員会での審議事項、報告等については、大学院研究科委員会において報告され、全教員が取り組みについての評価、改善に努めている。その結果、毎年博士前期課程入学者が増加している[0102b]。	

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0902	それぞれの活動についてできる限り各研究室のHPなどで公表し、外部からの意見を求めた。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
大学院HP、各研究室のHPにおいて、各教員の活動については随時公表している[0901a]。しかし、未だ外部からの意見をフィードバックする仕組みについては確立されていない。外部からの意見を集約するための仕組み（HP内に問い合わせ先メールアドレスなどの掲載）を行なっていく必要がある。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0902	社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していますか。また、教育研究成果を適切に社会に還元していますか。	自己評価	A
評価の視点	(2)社会連携・社会貢献に関する教育研究活動を組織的に推進していますか。 ・国際交流・地域交流事業への参加等			
現状説明	愛知県農業系4機関交流会：愛知県農業総合試験場と協定を締結し、名古屋大学、名城大学と持ち回りで年一回の愛知県農業系4機関による研究交流会を開催している。2020年度はコロナ禍のため中止、2021年度は名古屋大学(本学学生27名参加)、2022年度は中部大学(本学学生85名)参加がホスト校となり、対面とオンラインを併用して大学院生が研究報告、研究交流を実施している[0901b]。海外からの大学院生受入：海外協定校からの留学生の入学状況は、中国嘉興学院より2021年度は4名、2022年度は1名が入学している。しかし、コロナ禍で入国できなかったため、2021年度入学者のうち3名は半年後に除籍となっている。また、海外協定校以外から2名の留学生が博士後期課			

程に在籍している。[0102b]。海外の大学との学術締結協定：国外の大学と学術協定を締結しており、運営は研究科が中心となって実施している。対象年度内では、2019-2022 年度ウズベキスタン・タシケント州立農業大学・ヌクス校と学術協定を締結し、学術交流を実施した[0901c]。また、2022 年度よりベトナム・フエ農林大学、タイ・チュラロンコン大学と学術協定を締結し、学術交流を実施し、本大学院生の留学単位認定を行なっている[0901c]。

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0902	愛知県農業系 4 機関交流会：大学院生の研究交流の場として寄与している[0901b]。
項目 No. 0902	海外からの大学院生受入、海外の大学との学術締結協定：積極的に海外大学との教育、研究等の学術交流を行い、グローバル化と友好関係を強化、大学院生の教育・研究発展に寄与している[0901b]。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0902	愛知県農業系 4 機関交流会
今後の改善・向上方策	
コロナ禍のため、対面とオンラインを併用して実施してきたが、今後はコロナ感染状況によっては対面のみの開催を行うよう計画していく。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0902	海外からの大学院生受入、海外の大学との学術締結協定
今後の改善・向上方策	
海外からの留学生、学術交流の情報源となる英語版 Web は、一部の教員のみが作成している。今後は、学部 Web 担当教員が中心となり、全教員が作成するように計画していきたい[0901d]。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
0902 愛知県農業総合試験場と協定を締結し、愛知県農業系 4 機関交流会を名古屋大学、名城大学と持ち回りで年一回研究交流会を開催している。2022 年度は中部大学（本学学生 85 名）参加がホスト校となり、対面とオンラインを併用して大学院生が研究報告、研究交流を実施された [0901b]。海外からの大学院生受入については、海外協定校からの中国嘉興学院より 2021 年度は 4 名、2022 年度は 1 名が入学した（うち、コロナ禍で入国できず、2021 年度入学者のうち 3 名は半年後に除籍）。海外協定校以外からは 2 名の留学生が博士後期課程に在籍している。[0102b]。海外の大学との学術協定を締結しており、運営は研究科が中心となって実施している。2019-2022 年度にはウズベキスタン・タシケント州立農業大学・ヌクス校と学術協定を締結し、学術交流を実施し、2022 年度よりタイ・チュラロンコン大学と学術協定を締結し、学術交流を実施、及び本大学院生の留学単位認定を行なっている。以上のように、国際交流、地域交流が活発に実施されている。	
なお、0902 現状説明の記載にあるベトナム・フエ農林大学は、更新手続き検討中のため削除すべきであった。	

長所・特色
0902 愛知県農業系 4 機関交流会を名古屋大学、名城大学等と開催したり[0901b]、海外協定校またそれ以外からの大学院生の受入を行ったりしている[0102b]。また、海外の大学との学術協定を締結しており、運営は研究科が中心となって実施[0901c]しており、国際交流、地域交流の取り組みがなされ、大学院生の教育・研究発展に寄与している。
留意点 *各項に留意点レベルを記入 【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項
0902 コロナ禍後の対面による研究交流の在り方や留学生受け入れ及び学術交流の方法について検討を進める必要がある。【B】

根拠資料 No.		ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	番号		
		追加資料なし	

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

2023年度 自己点検・評価シート

自己評価組織	応用生物学研究科
--------	----------

基準 11	大学独自の評価項目
-------	-----------

I. 課題事項等への対応状況

直近の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input type="checkbox"/> 課題事項	<input checked="" type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 1120	主任会が承認する委員会の運営規程の整備が望まれる。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
主任会において、学部および研究科のための12の常置委員会を設置し [1120a]、その全ての委員会に規程または内規を整備済みである[1120b]。 上記の12常置委員会において、応用生物学研究科のための常置委員会として④応用生物学部・研究科FD推進委員会、⑥応用生物学研究科教務委員会、⑧応用生物学研究科自己点検・評価委員会、⑩応用生物学研究科大学院入試委員会が含まれ、これらの全てに規程または内規が整備済みである[1120b]。 今後、必要に応じて規程の改訂を行っていく。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていき	自己評価	A
評価の視点	(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。			
現状説明	研究科委員会は、その構成員の多くが教授会構成員と重複しているため、教授会と同時に開催しているが、その議事の採決については研究科委員会構成員によって実施している。研究科委員会は、議長の招集により開催し、議事録は事務局で素案を作成し研究科委員会での決裁を経て本部へ提出している[1120c], [1120d], [0406a]。 研究科委員会の議事は、あらかじめ主任会において、その申し合わせに基づき事前協議を実施している[1120a]。主任会は議長の招集により開催し、議事録は事務局で素案を作成し、主任会での決裁を経て事務局で保管している[1120e], [1120f], [1120g]。 主任会には常置委員会を含む専門委員会を置くことができ、その委員会により固有事項の処理及び主任会より付託された事項を審議し、主任会・研究科委員会へ報告する [1120a]。			

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 1120	<p>研究科委員会における議事および資料は、PDF で作成し構成員にデータで配布し、紙の節減を図っている。</p> <p>議場においては、対面の会議では議長がPCにより資料をプロジェクター投影し、ZOOM 会議の場合では ZOOM の共有機能を使用して会議出席者へ資料を提示している。</p> <p>コロナ感染症の発生以降、会議の大半が対面から ZOOM 会議へ移行したことに伴い、会議進行における資料提示方法を工夫（議事レジメと資料データをハイパーリンクで結合）して、議長の会議進行の円滑化を図っている。</p>

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1120	常置委員会の規程の整備
今後の改善・向上方策	
<p>主任会では12の常置委員会が設置され [1120a]、その内10の委員会（①応用生物学部スペース検討委員会、②応用生物学部共通機器委員会、③応用生物学部学生実験委員会、④応用生物学部・研究科FD推進委員会、⑤応用生物学部教務委員会、⑥応用生物学研究科教務委員会、⑨応用生物学部入学者選抜委員会、⑩応用生物学研究科大学院入試委員会、⑪応用生物学部学生募集委員会、⑫応用生物学部組換えDNA実験安全委員会）に規程を設置し、2つの委員会（⑦応用生物学部自己点検・評価委員会、⑧応用生物学研究科自己点検・評価委員会）に内規を設置した[1120b]。今後、必要に応じてその規程・内規の改訂を行っていく。</p>	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	レビューなし
長所・特色	
留意点	<p>*各項目に留意点レベルを記入</p> <p>【A】・・・緊急の改善を要する事項</p> <p>【B】・・・検討を要する事項</p>

根拠資料No.	ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出
---------	-----------------------	----

項目 No.	番号		区分

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

2023年度 自己点検・評価シート 根拠資料一覧

組織名

応用生物学研究科

基準 (シートNo.)	根拠資料No.		根拠資料の名称	提出 区分
	項目No.	記号		
1. 理念・目的 (NF0101)	0102	a	2021年度応用生物学研究科大学院教務委員会議事録	●
	0102	b	2022年度応用生物学研究科大学院教務委員会議事録	●
	0102	c	Google Classroom 応用生物学研究科教務委員会 https://classroom.google.com/w/MjkzNDkwNmZ20Tk0/t/all	△
2. 内部質保証 (NF0201)	0203	a	2020年度応用生物学研究科自己点検・評価シート https://www.chubu.ac.jp/about/wp-content/uploads/sites/8/2022/05/about-facts-figures-evaluate-self-evaluation-2019report-17.pdf	○
	0203	b	2020年度応用生物学研究科ピアレビュー報告書 https://www.chubu.ac.jp/about/wp-content/uploads/sites/8/2022/05/about-facts-figures-evaluate-self-evaluation-2019report-18.pdf	○
	0203	c	2021年度応用生物学研究科自己点検・評価シート	○
	0203	d	2022年度応用生物学研究科自己点検・評価シート	○
	0203	e	2020年度中部大学に対する大学評価結果 https://www.chubu.ac.jp/about/wp-content/uploads/sites/8/2022/05/evaluation-evaluation-2020-01.pdf	○
	0203	f	2022年度応用生物学部・研究科主任会議事録 第4回	●
	0203	g	2022年度応用生物学部・研究科主任会議事録 第8回	●
4. 教育課程・学習成果(1) (NF0401)	0401	a	学生便覧 (大学院, 2022年入学生対象) https://www2.chubu.ac.jp/current_students/curriculum_section/pdf/binran_graduate_2022.pdf	○
	0401	b	3つのポリシー 大学院 応用生物学研究科 応用生物学専攻 (博士前期・後期課程) https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/graduate-biology/	○
	0403	a	中部大学応用生物学部応用生物化学科 カリキュラムマップ (2016年度入学以降) https://www.chubu.ac.jp/documents/facts-figures/curriculum-map/5lfr.pdf	○
	0403	b	中部大学応用生物学部環境生物科学科 カリキュラムマップ (2020年度入学以降) https://www.chubu.ac.jp/documents/facts-figures/curriculum-map/52fs.pdf	○
	0403	c	中部大学応用生物学部食品栄養科学科/食品栄養科学専攻 カリキュラムマップ (2020年度入学以降) https://www.chubu.ac.jp/documents/facts-figures/curriculum-map/53ft1.pdf	○
	0403	d	中部大学応用生物学部 食品栄養科学科 管理栄養科学専攻 カリキュラムマップ (2018年度入学) https://www.chubu.ac.jp/documents/facts-figures/curriculum-map/54ft2.pdf	○
4. 教育課程・学習成果(2) (NF0402)	0404	a	2020年度第9回応用生物学部教授会・第10回応用生物学研究科委員会資料 (抜粋)	●
	0404	b	2021年度第7回応用生物学部教授会・第9回応用生物学研究科委員会資料 (抜粋)	●
	0404	c	2022年度第8回応用生物学部教授会・第10回応用生物学研究科委員会資料 (抜粋)	●
	0404	d	2022年度第11回応用生物学部教授会・第14回応用生物学研究科委員会資料 (抜粋)	●
	0404	e	大学院教務委員会規程	○

(様式1-4)

	0404	f	2023年度大学院応用生物学研究科行事日程 https://www3.chubu.ac.jp/documents/current_students/graduate_biology/news/27959/27959_cfb14100ec4a67742bed3d0bbf57f138.pdf	○
	0404	g	2022年度修士学位申請要領 https://www3.chubu.ac.jp/graduate/biology/current_students/news/28281/	○
4. 教育課程・学習成果(3) (NF0403)	0406	a	2022年度応用生物学研究科委員会議事録	●
	0406	b	応用生物学研究科2022年度修士学位請求論文発表会および2022年度第2回研究中間報告会が開催されました https://www.chubu.ac.jp/news/18348/	○
	0407	a	2021年度第1回大学院生研究中間報告会について https://www3.chubu.ac.jp/biology/current_students/news/27321/	○
5. 学生の受け入れ (NF0501)	0502	a	2023年度中部大学大学院入学試験要項 工学研究科 応用生物学研究科 https://www.chubu.ac.jp/admissions/wp-content/uploads/sites/15/2023/03/2023autumn.pdf	○
	0503	a	2022年度第10回応用生物学部教授会・第12回応用生物学研究科委員会資料	●
	0504	a	2023年度大学院進学説明会 https://www3.chubu.ac.jp/graduate/biology/current_students/news/28375/	○
	0504	b	2023年度大学院進学説明会資料 https://www3.chubu.ac.jp/documents/current_students/graduate_biology/news/28375/28375_b092b9cd2af0ec6d5827ab5e146faa23.pdf	●
6. 教員・教員組織 (NF0601)	0602	a	2022年度応用生物学部主任会議事録_第4回	●
	0602	b	2022年度応用生物学部主任会議事録_第8回	●
	0602	c	2022年度応用生物学部主任会議事録_第9回	●
	0602	d	2022年度応用生物学部主任会議事録_第10回	●
	0602	e	2022年度応用生物学部主任会議事録_第11回	●
	0602	f	学園ビジョン2021-2025実行計画進捗状況(2022年度)評価指標・担当表	○
	0602	g	2022年度応用生物学部主任会議事録_第5回	●
	0603	a	昇格・昇任の判定基準(改正)	○
	0604	a	2022FD活動推進計画書	○
7. 学生支援 (NF0701)	0702	a	2023年度第1回応用生物学部教授会・応用生物学研究科委員会資料(抜粋)	●
	0702	b	mail_20230411_[fr-all-m1]チャレンジ就活について	●
	0702	c	2020年度第4回応用生物学部教授会・第5回応用生物学研究科委員会資料(抜粋)	●
	0702	d	2021年度第4回応用生物学部教授会・第5回応用生物学研究科委員会資料(抜粋)	●
	0702	e	2022年度第4回応用生物学部教授会・第5回応用生物学研究科委員会資料(抜粋)	●
	0702	f	2020年度第10回応用生物学部教授会議事録	●
	0702	g	2021年度第13回応用生物学部教授会・第17回応用生物学研究科委員会資料(抜粋)	●
	0702	h	応用生物学研究科入学者数の推移2009-2023	●
	0703	a	2023春応用生物学研究科在学生オリエンテーション https://drive.google.com/file/d/1VxDZ1f96pr7xfYdfv0s0xxsnCvRsBKu0/view	●
8. 教育研究等環境 (NF0801)	0802	a	2022年度応用生物学部教授会議事録_第13回	●
	0802	b	2021年度応用生物学部教授会議事録_第6回	●
	0802	c	2021年度応用生物学部教授会議事録_第9回	●
	0802	d	2021年度応用生物学部教授会議事録_第13回	●
	0802	e	2022年度応用生物学研究科大学院教務委員会議事録_第2回	●
	0802	f	2020年度応用生物学部教授会議事録_第4回	●
	0802	g	2020年度応用生物学部教授会議事録_第5回	●
	0805	a	2021年度応用生物学部教授会議事録_第7回	●
	0805	b	2022年度応用生物学部教授会議事録_第1回	●
	0805	c	2022年度応用生物学部教授会議事録_第7回	●
	0806	a	2021年度応用生物学部教授会議事録_第2回	●

(様式1-4)

9. 社会連携・社会貢献 (NF0901)	0901	a	中部大学Web 応用生物学研究科 Web https://www.chubu.ac.jp/academics/graduate-biology/	○
	0901	b	愛知県農業系4機関交流会プログラム	○
	0901	c	学術協定書写し (学部事務室資料)	△
	0901	d	中部大学Web 英語版Web https://www2.chubu.ac.jp/english/faculty/list/colleges.php	○
11. 大学独自の評価項目 (NF1101)	1120	a	応用生物学部・研究科主任会運営申し合わせ	○
	1120	b	応用生物学部・研究科常置委員会規程等	△
	1120	c	2020年度応用生物学研究科委員会議事録	●
	1120	d	2021年度応用生物学研究科委員会議事録	●
	1120	e	2020年度応用生物学部主任会議事録	●
	1120	f	2021年度応用生物学部主任会議事録	●
	1120	g	2022年度応用生物学部主任会議事録	●

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管